

9月まで延長された介護保険料・利用料と国保料・医療費の減免 介護保険料(4月～7月)の納付を求める対応の中止を!

熊本地震から1年がたちました。地震による被災者(半壊以上)への国民健康保険料や医療費窓口負担、介護保険料・利用料の減免が今年9月まで延長されています。しかし、介護保険料については行政の事務手続き上の理由で、

4月から7月までの保険料納付を求める通知が発送されている状況です(納付した分は、8月以降の保険料で調整)。日本共産党市議団は、介護保険料の納付を求める市の対応を改めるよう要請を行いました。

重い経済的な負担 多くの被災者が住宅再建に不安

熊本市では、住まいを失い、応急仮設住宅、みなし仮設住宅、公営住宅等に入居している方が10,000世帯を超えている状況です。

熊本市が行った仮設住宅等の入居者に対する全戸訪問調査において、約2,000世帯の方が住居再建に不安を抱いていると回答しており、住まい再建に向け経済的な困難に多くの

市民が直面している状況も明らかになっています。

介護や医療における9月までの減免延長は、被災者への医療サービスや介護サービスを保障し、その負担の軽減を図ることが大きな理由でしたが、現時点での納付を求める対応は、減免延長の考え方に反するものです。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか やまべひろし

熊本市中央区手取本町1-1 議会議棟

NO. 1045
2017年4月30・5月7日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホームページ：共産党 熊本市議団

熊本市「分納など納付相談を丁寧に行っていく」

今回の要請に対して熊本市は、事務手続き上の課題もあって納付通知を送ることになったと経緯を説明。その上で「被災者の方々の実情などもききながら、分納相談など丁寧に対応していきたい」と回答しました。市議団として、「住宅再建に向け経済的な負

担に困っておられる被災者も多くいる。9月まで減免制度が延期された主旨を受け止め、保険料負担を求めないよう改善すること。また、減免制度を9月以降も延長すること」を要望しました。



介護・国保やお困りのことなどお気軽にご相談ください

介護保険料や国保料の支払い、震災関連のご相談など、お気軽にご相談ください。

日本共産党熊本市議団 328-2656

弁護士による「無料法律相談」のご案内

毎月定例で無料の法律相談を行っています。どなたでもご利用できます。震災に関わる法律相談も含め、ぜひご利用ください。

「事前予約制」です。ご希望の日時に電話予約をお願いします。

- 5月9日(火) 午後1時～4時
菜の花法律事務所(南区江越1-17-12) Tel 322-7731
- 5月11日(木) 午後4時～6時
東区生活相談所(広木町7-23-2) Tel 328-2656
- 5月17日(水) 午後2時～4時
中央区生活相談所(大江5-15-20) Tel 375-2200
- 5月20日(土) 午後6時～8時
北区生活相談所(武蔵ヶ丘1-10-1) Tel 338-2001
- 5月24日(水) 午後1時30分～4時
山本のぶひろ渡鹿生活相談所(渡鹿6-5-60) Tel 362-5181

ブルーインパルスの展示飛行中止を求めました

党熊本市議団・党県委員会・熊本地区委員会・県議で、市へ申入れ 市街地上空での展示飛行は「危険」

今回、市が実施する展示飛行は、熊本城を中心に半径 10 km の空域での飛行ですが、住宅が密集する市街地及びその上空で、万が一事故が起これば、重大な被害が発生することになります。上空を飛行する戦闘機の大きなジェット音に、恐怖と不安を感じる市民も多くいます。日本共産党は飛行中止を求めました。

ブルーインパルスが引き起こした重大事故は、少なくありません。

- ・1982 年、浜松基地航空祭で会場近くの駐車場に墜落（パイロット 1 名殉職、住民 12 名負傷）
- ・1991 年、宮城県金華山沖に 2 機墜落（パイロット 2 名殉職）
- ・2000 年、宮城県光山山頂付近 2 機墜落（パイロット 3 名殉職） など

地震の復興にそぐわない国産戦闘機のパフォーマンス

ブルーインパルスは、全国各地の基地で開催される航空祭や自治体等のイベント・行事などで展示飛行を実施することで航空自衛隊の存在を多くの人々にアピールし、国産戦闘機のパフォーマンスやパイロットの技量を示すことで、日本の防衛力や

航空産業の水準を国内外に発信し、潜在的な「抑止力」を高める役割を担っています。

以上のように、航空自衛隊の PR が目的で、事故の危険性を否定できない展示飛行を、復興の名を借り実施することは許されません。

「爆音への恐怖」や「戦争を想起する」など、不安の声も

ブルーインパルスの飛行には、賛否両論ありましたが、展示飛行の実施を知った市民からは、「復興祭にブルーインパルスの飛行はやめてほしい。どこに抗議すればよいのか？」というお尋ねや、4月22日のリハー

サル・23日の本番では「あの大きな爆音はうるさい」、「戦争のようで怖い」、「爆音は、戦争を思い出すので聞きたくない」などの声が寄せられました。

『ヒバクシャ国際署名』、熊本でもさらなる推進を

3月、ニューヨークで開かれた「核兵器禁止条約の国連会議」。この会議は「核兵器を禁止する法的拘束力のある協定」へむけて大きな一歩がふみだされた歴史的なものとなりました。

日本共産党からは志位和夫委員長が会議で演説、唯一の戦争被爆国の政党として、国民の声を届けました。いっぽうで、日本政府は核保有国に同調し、会議をボイコットするという大変残念な結果になりました。

しかし、「核兵器禁止」はもは

や国際的な世論として大きな流れになりつつあります。

『ヒバクシャ国際署名』は、文字通り平均年齢 80 歳をこえた被爆者のみなさんが呼びかけ人となり、核兵器禁止条約が論議されている国連総会へ 2020 年まで毎年届けるものです。政治的立場や思想、宗教などの違いをこえて、誰でもが応じることのできる、国民的運動です。

熊本市でも署名のさらなる推進のため、市議団としてしっかり取り組んでいきます。

熊本県原水爆被害者団体協議会 前事務局長 中山高光さん

『ヒバクシャ国際署名』は、熊本では原水協の皆さんが、毎月の「6・9 行動」（毎月 6 日と 9 日に行われる署名行動）で、がんばって集められています。私をはじめ市内の被爆者の皆さんも、高齢ではありますが、毎回出かけて行って署名に参加しています。

国連会議で、日本政府が不参加であったことは、大変残念に思いますが、いっぽうで共産党の志位委員長がニューヨークまで出かけて行って私たち被爆者のことを訴えてくれたことは、とても心強く思っています。

この『ヒバクシャ署名』が、もっと大きな広がりになることを願ってやみません。